

共産党4議席が
市政と市議会を変えます

村上 かずしげ

対決、提案、共同で 市政を動かす



1959(昭和34)年生まれの55歳。弘前大学人文学部卒、(株)日本旅行勤務、民主青年同盟釧根地区委員長を経て市長選(2回)と総選挙に立候補。2001(平成13)年、釧路市議に初当選、現在3期目、党市議団幹事長。北新町町内会長、勤医協友の会阿寒支部長、日本共産党釧根地区委員長等も務めている。

暮らしと福祉を一番大切に する市政に

私の故郷は「被災地」東日本大震災の3日後に「両親は助かった」との知らせを聞いて、陸前高田市の避難所に駆けつけ、両親を釧路に連れてきました。そのとき見た故郷は、私の人生で最も凄惨な景色でした。

震災から一か月たつて、兄弟同様に育つた従兄の遺体が見つかりました。義姉の母親が見つかったのはさらに3か月も経つてのことでした。

津波の犠牲者をもつ出さない震災後の最初の議会で、私は津波対策を取り上げました。津波のことを訴え続けることが、私のできる一番の供養だからです。

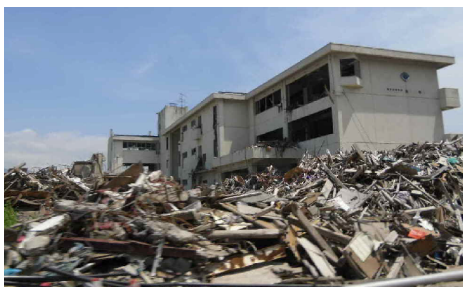
津波のときに逃げ込める公住西部地域は津波のときに安全な高台がありま

せん。「津波のときに避難できる市営住宅を」と求めました。

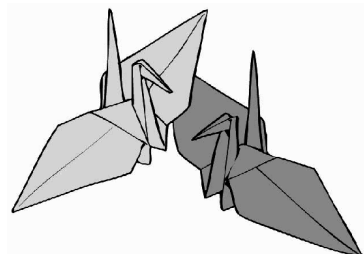
本会議でも委員

会でも、何度も何度も。いま新

富士の近くに、鳥取南団地二棟が津波避難ビルとして建設が始まりました。



娘の名前に込めた平和の願い
一人娘は、8月6日、原爆記念日に生を受けました。広島にある「原爆の子の像」の折り鶴にちなんで「千鶴」とつけました。



父子家庭の日々
妻が急逝したの娘が3歳の時。精一杯家事こなしながら、二人三脚で娘と生きてきました。



「人は死ぬと星になるんでしょう？でも、ちいはお母さんの星がどれかわかんない。」と突然泣き出した娘を指さして「あれを指さして」と話すのがやっとでした。

子どもが大切にされる社会にお世辞にも褒められた子育てではなかったと思えます。だからこそ、子どもたちと弱い立場の人にこそ、政治のあたたかい光が必要とと思っています。

